

現役メンターと学ぶ

原著論文執筆の 壁とその越え方

【著】一三三 亨

聖路加国際病院救急科 医長・CCM, HCU室長



日本医事新報社

私はこれまで多くの医学雑誌の査読や編集委員を担当してきましたが、内容はとても良いのに、イントロダクション、考察、図表などの作成方法を教えてもらっていないという“惜しい”論文を目にしてきました。その都度「所属施設の責任者に必ず見てもらってください」と査読結果を書くのですが、なかなか整った形の原著論文に出会うことは少なかったように思います。そのようなこともあり、私自身は多くの医療者の方々に原則に則った形での論文を書いてほしいとの思いから、2011年に「原著の書き方」という解説を、現在理事長を務めさせていただいております日本集中治療医学会の公式雑誌上に発表しました。

本書『現役メンターと学ぶ 原著論文執筆の壁とその越え方』は、私の弟子である一二三先生が今まで多くの大学院生の論文指導を行ってきた中で勝ち得た知識と経験を一生懸命に書き上げた書籍であり、その熱量たるや原著論文の書き方のマニュアルを超えて、何か経典のようなレベルに達しているように思います。一二三先生は常々、“実臨床のための研究”との北里柴三郎先生の言葉を繰り返し唱えています。本書もその言葉に見合うように実際に原著論文を書くためにどのようなトレーニングをどれだけ行えばよいのか、どの指導者に教えるを乞えばよいのか？ その答えを惜しげもなくすべて記載した実学書になっています。困ったときにどのように対応したらよいかが明確に記載され、また、その心理的な背景にまで迫って、どうしたら原著論文が書けるのかについて、これほどその問いに真摯に向き合い、こたえようとした書籍は今までなかったと思います。

原著論文を書くことは大変ですが、本書を読めば原著論文が書けるようになる、そう思わせてくれる素晴らしい書籍です。是非とも実際に手に取ってお読みいただければと思います。

2024年7月

香川大学医学部救急災害医学 教授
日本集中治療医学会 理事長

黒田泰弘

この書を手にとってくださった皆様に、 目に留めていただいた皆様に

まず、本書『現役メンターと学ぶ 原著論文執筆の壁とその越え方』に興味を持っていただきまして心から御礼申し上げます。

本書を手にとっている方の多くは、大学院に入って原著論文執筆の難しさに少し焦っているか、漠然と「原著論文を書かなきゃ」という圧力にさらされているのだと思います。中には自分から原著論文を書いてやろう！ という強い思いをお持ちの方もいらっしゃると思います。いずれにせよ、辛い立場の場合には本書が何らかのいいきっかけになる、あるいは少しでもメンタルを楽にさせる“薬”となる、また強い思いをお持ちの方にはさらなる起爆剤となれば幸いです。

私自身をPubMedでhifumi toru [au]で検索すると(2024/07/02に検索), 論文数は222, そのうちsecond authorの英語論文が77あります。second authorは、実質的な指導をする立場(やや大袈裟ですが)で論文作成に関わります。その数が現役トップクラスで、多くのfirst authorの先生方の論文執筆に関わることができました。その中でもfirst authorの先生方の人生初の英語原著論文に携わることができたことは大変なご縁であり、その貴重な経験をもとに本書を執筆しました。

“論文の書き方教えます”とか“発表の仕方を教えます”といった同様の論文の書き方の本は、確かにこれまでもあったと思います。ただし、本書は今までの書籍と異なります。

ポイントは5つです。

①より楽に

原著論文が書けるように、出くわす壁(つまずき)に対するその越え方(明確な答え)を用意します。

②安心して

長い期間にわたって本書を利用できるように、5大医学雑誌の最新のトレンドを踏まえた内容にしています。

③体力をつけて

しっかりと原著論文が書ききれるように、アカデミア筋トレの詳細をすべてお伝えします。

④お得に

「お得な補足」として実際に原著論文を書く際に有益な情報を、ポイントを絞って提供します。

⑤リアルに

原著論文執筆がイメージできるように、実際のエピソードをふんだんに使用して解説しています。

本書を読んでいただきたいのは、原著論文をこれから初めて書こうと思っている方だけではありません。すでに1~2回原著論文を書いたことがある方、さらにこれまである程度経験があつて殻を破りたい方にもおすすめです。医師だけではなく、看護師や臨床工学技士に対する私自身の指導経験に基づく具体的な記載をしていますので、薬剤師さんを含めた医療従事者皆様にぜひともお読みいただきたい内容です。また、若手を教える立場の指導者クラスの方にも、ぜひともお読みいただきたいです。原著論文のポイントをかつまんでまとめていますので、指導の参考にいただければ幸いです。原著論文の書き方のハウツーのみならず、原著論文を書くことで得られる価値観にまで言及していますので、ぜひとも読み物として楽しんでいただきたいと思います。

私自身は、本書をまとめることで、原著論文を書くことはそれほど途方もない作業ではなく、一定のポイントさえ理解すれば誰にでも可能で、でもずっと続けていく必要があることを読者の皆様にお伝えしたいと思っています。

最後になりましたが、「本書の発刊に寄せて」をご執筆いただきました黒田泰弘先生は、私自身が原著論文の書き方を最初にご指導いただいた先生であり、

またその後のたくさんの大きな研究をサポートいただきました。改めて感謝申し上げます。本書の制作に関して、日本医事新報社の長沢雅さんには全体の構想から細かな原稿のニュアンスの部分まで、私の疑問をその都度、丁寧に解決していただきました。たくさんのやりとりの中で自然と様々なアイデアが新たに思い浮かび、また自分自身の考えを整理することができました。本書の執筆を通じて様々なアカデミアの価値観を共有できたことに感謝申し上げます。

本書では実際の若手学習者とのエピソードを多数取り上げております。また、このようにまとめることができたのは、今まで多くの先生方にご指導いただき、ここまで導いていただいたおかげです。こうしたすべての皆様に改めて感謝の意を表したいと思います。

2024年7月

聖路加国際病院救急科 医長・CCM, HCU室長

一二三 亨

論文が書けない…。今までの本を読んでも書けなかった…。同様の本はたくさんあるよね？ この書籍はどこが違うの？

原著論文執筆の壁

今までたくさん本を読んだのに論文が書けない…。この書籍は何か違いますか？

まず、他人のせいにしてしまおう (本やウェブサイトの内容に問題あり?)

大切なポイントを書きました。本書を手にとる学習者の多くは非常に真面目で、論文が書けないことに焦り、既に苦しんでいると思います。

まず、私が伝えたいのはそこからの一時的な解放です。論文が書けないのは、皆様の能力の問題ではありません。決してサボっているからではありません。

今まで読んだ書籍やウェブサイトが良くなかっただけなのです。良い指導者との巡り合わせがなかっただけなのです。他人のせいにしてしまおう。大切なポイントです。自分で抱え込みすぎはいけません。あくまでも論文であって、それで人生が苦しくなってはいけません。これは自分の経験談で多くの大学院生が少しうつ状態になっているのを見てきたので、大切なこととしてまずお話しします。

本のせいにするとして、今までの“論文の書き方教えます”本はどこがじっくりこないのか？

“論文の書き方教えます”本はすでにあります。ですが、私からしたら、その書籍が本当に若い学習者を教えてきた経験からくるコツやなぜを、若い学習者のほうを向いてしっかりと書いているのか？ 極論すれば、ただ単に自分が論文を書くにあたって培った知識のまとめノートに過ぎないのか、で大きく違うように思いました。

そのような思いがあり、本書を通じて従来の書籍よりも、



論文が書けるようになるようになってほしいと願っています。

① 楽に

筆者が現在進行形で若い学習者を指導している。その経験からのコツとなぜをしっかりと書いている。

“論文の書き方教えます”とか“発表の仕方教えます”といった書籍の著者の先生方は、実際に多くの論文を書いた、あるいはご自身で素晴らしい論文を発表された(ている)先生であることは紛れもない事実です。しかしながら、実際に現在進行形で若い学習者を直接1から指導している立場ではないことが多いように思います。

そのため、研究を行って学会発表をして論文を書こうとしている今の若手の学習者がまず、どのような思考にあるのか？ どこでつまずいて、どのように指導すれば克服できるのか？ なぜ、今まで同様の本を読んだだけで多くの若手の学習者はうまく発表ができない、原著論文が書けないのか？ については残念ながら

書かれていないように思います。本書では、その部分になるべく明確な回答を用意し、またコツやなぜにこだわった記載としています。コツやなぜを理解することで、より原著論文がより楽に書けるようになります。

② 安心して

筆者自身が現在進行形で5大医学雑誌に細かく目を通している。
その経験から最新の論文の変化や特徴まで書いている。

論文の世界も日進月歩。次から次に形が変わっていきます。つまり、その変化に対応できなければ、論文のアクセプトに至ることが難しくなります。今までの書籍では、内容としては素晴らしくても、時代の変化に対応しきれていないと感じることもあります。本書では、最新の論文記載について言及していますので、安心して原著論文が書けるようになります。

③ 体力をつけて

マニュアル的な記載に終始せず、筋トレにまで踏み込んでいる。

現役メンター＋選手（選手兼コーチのような）の立場で、研究であれば、なぜできないのか？ 論文であればなぜ書けないのか？ できるようになるには、書けるようになるには、どのようなトレーニングが、どの程度まで必要なのか？ これについて真剣に悩み、考えてきました。

本書では、その部分で従来の書籍にメスを入れています。論文が書けるようになるトレーニングとして、アカデミア筋の筋トレを推奨しています（[16項参照](#)）。筋トレを行うことで、より原著論文が書ける体力が身につきます。

④ お得に

「お得な補足」として、実際の論文を書くにあたっての有益な情報をポイントを絞って提供している。

淡々としたマニュアル的な記載に終始するのではなく、お得な補足としてポイントを絞った、実際の論文を書くにあたっての有益な情報を提供しています。私の経験から多くの若手がつまづいてきたポイントに絞って、有益な情報を追加して解説しています。原著論文を書くときにお得です。

⑤ リアルに

実際のエピソードをふんだんに使用し、リアリティーをより高めている。

従来の書籍では、指導者と学習者との間での具体的なエピソードのような記載は見たことがありません。本書では、実際に私と学習者との間でのエピソードをふんだんに盛り込みました。読者の方によりリアリティーを高めてもらうことで、実際に困ったときの対応方法が理解できる、よりリアルに原著論文が書けるようになります。

壁を乗り越える

従来の書籍と本書の違いを明確にしてみました。本書をご活用いただくことで、原著論文が書けるようになります！ 原著論文を“書く”ことにこだわった書籍です。一般論に終止していません。“書く”の実践本です。